

英語の教科書を語の歴史背景から読む

—語源学の応用—

赤瀬 修

はじめに

英語の語について、私には忘れられない経験があります。新任教員のころ、パートランド・ラッセルの「西洋哲学史」¹(*History of Western Philosophy and its Connection with Political and Social Circumstances from the Earliest Times to the Present Day.*)を読んでいたとき、“enthusiastic”について次のような説明に出会いました。この語はギリシア語起源で、in(ἐν)とgod(θεός)から成り立っており、その本来の意味は、“of union with the god”(神と一体化する)であると述べられてありました。「熱狂的」とはそのような状態を言うことが新鮮でした。日本人である私にとってそうであったのですが、何年か前にこの語のことを、ジョージア州アトランタから来た若いアメリカ人記者に話したとき、彼女は“very beautiful”と言いました。心に快適な感情を抱いたときにその気持ちを表す語が、“beautiful”だと思いますが、若いアメリカ人である彼女もまたこの語が持っている発想に新鮮な感じを持ったのだと思います。実際にこのような意味すなわち「神、超自然的な靈感に取り憑かれる」で使われていたことが、『オックスフォード英語辞典』(以下 *O. E. D.* と省略)に記載されています。その文例を引きます。後の括弧内の数字はその記載年です。

A certain ενθουσιασμος and celestial inspiration. (1579年)

ある種の ενθουσιασμος, 天よりの靈感

英語の語彙に関して、アーネスト・ウィークリーは「我々の使う表現は、最も基本的な対象や行為と関係のあるものを別にすればことごとく隠喩(metaphor)からできている。」²と述べ、日常よく用いられている語が、具体的で物理的な場面とかかわりを持っていたことを例証している。英語はイン

ド・ヨーロッパ語族の1つの言語であってその歴史過程においてさまざまな言語を受容してきました。その語源をさかのぼると語の意味内容が具体的に変わってくるのがわかります。上の例で言う“enthusiastic”という抽象的な内容が「神」という具体的場面とかかわりを持っています。もう1例“right”(権利、正しいこと、正しい)を挙げてみます。この語はラテン語の“rectus”(真っすぐな)、その動詞形“regere”(真っすぐにする、正しく導く)と、またギリシア語の“ὀρεκτός”(十分に伸びた、直立した)、その動詞形“ὀρεγέειν”(十分に伸びる)と、さらにはサンスクリット語の“ṛjyati ऋज्यति”(彼が・彼女が・それが真っすぐに伸びる)と血縁関係にあります。このことから“right”という語は「十分に真っすぐに伸びる」という発想を担って使われてきたことがわかります。つまりこの語を使う人々の意識の深いところにはこのような欲求があるように思えるのです。「権利」という抽象的な内容をこのように具体的な次元から考えていく楽しみが得られます。このように語そのものが担ってきた発想を知るという観点に立って具体的に英語の教科書のなかの文章を取り上げて読んでみますが、G. E. カームのSyntaxの「文」の定義に関する文から始めてみます。

A sentence is an expression of a thought or feeling by means of a word or words used in such form and manner as to convey the meaning intended.

“sentence”という語はラテン語の“sententia”(a way of thinking, opinion, sentiment)に由来しその動詞形“sentire”は“to feel, think”の意味を持つ。カームの定義の前半部はすでにこの語の発想を持っていると言えます。それではこの語が英語においてこの意味で使われたことがあるのかという

ことになるわけですが、*O. E. D.*はその意味用法を現在では廃用(Obsolete 以下 Obs と省略)として最初に載せています。その文例を引用します。

Yet is it the most common sentence of al
the ... holye men. (1534年)

だがそれは聖職に就いている人たちすべてに最もありふれた考えかたですか。

“expression”の動詞“express”はラテン語の“expressimere”(ex; out + primere; press)に由来しその意味は物理的に「絞り出す」である。「表現」という意味は場所を変えて頭の中で「絞り出す」という発想を持っています。*O. E. D.*のその物理的な意味の例を引きます。

After ... the coast-men have by expression
... gotten that kind of ... oyle ... from the
fish. (1594年)

その海岸に暮らしている人たちは魚を絞ってその種の油を得た後で

“feel”は中英語“felen”古英語“felan”から来ており、またラテン語の“palpare”(to touch softly, stroke), “pellere”(to set in motion with a push)と、ギリシア語の“Ψαλλειν”(To pluck, shake, play a stringed instrument)と、さらにサンスクリット語の“asphālayati अस्फालयति”(he shakes, flaps, strikes)とかかわりがあると語源辞典は教えてくれます。“feel”とはそこから我々が「揺さぶられて動く」という発想を持っていると教えてくれます。その「揺さぶられて動いている」ものを絞り出したものが“sentence”ということになります。“convey”について述べます。この語は俗ラテン語“conviare”(con = cum; together + via; way)に由来しその文字どおりの意味は「共に同じ道を行く」である。したがって文の定義の最後の部分は人が語を使ってその意図する内容と同行していると理解したいと思います。

教科書を語の歴史背景から読む

私は以前、教研出版 *POLESTAR English Course I* を使用したとき、その新出単語動詞83、名詞・形容詞・副詞等187を H. C. Wyld の *The Universal English Dictionary* を基にして、その意味定義、語源を辞書形式にまとめてみました。その作業をしながら、教科書のなかに出てくる語の歴史背景をその

文章に即して読んでみよう、すなわち語そのものの発想に語らせることで文章を読んでみようと思いました。以下私が使った教科書のなかの文章を取り出して説明を加えてみます。

【具体例1】

Robot have their own talents—speed and accuracy, for example. But human talent is far greater.

(*POLESTAR English Course I*)

“talent”はギリシア語“τάλαντον”(balance, a weight and a sum of money represented by that weight of silver.)に由来し、元来は「秤」の意味であり、物を持ち上げたり目方を計る観念から現在の意味は来ている。*O. E. D.*はこの重さの単位を“A denomination of weight used by the Assyrians, Babylonians, Greeks, Romans, and other ancient nations; varying greatly with time, people and locality.”と定義している。現在の意味「(生まれつきの)才能」は、新訳聖書のマタイによる福音書25章15の次の話によるという³。

καὶ ᾧ μὲν ἔδωκεν πέντε τάλαντα, ᾧ δὲ δύο, ᾧ δὲ ἓν, ἐκάστω κατὰ τὴν ἰδίαν δύναμιν, καὶ ἀπεδήμησεν.

To one he gave five talents: to another, two, and to a third, one — to each according to his ability; then he went away. (すなわち、それぞれの能力に応じて、ある者には5タラント、ある者には2タラント、ある者には1タラント与えて、旅に出た。)

この語はまたラテン語“talentum”(A Greek weight, which varies in different states: a sum of money), その動詞“tollere”(to lift), サンスクリット語の“tulā तुला”(balance; weight)と、その動詞“tolayati तीलयति”(He raises up, esp raises so as to find its weight.)と関係がある。ロボットの物を持ち上げる力よりも人間はさらに高い能力を持つ。新訳聖書の話は、能力“δύναμις”(strength, power, ability to do things)をお金という目に見える形で表現した。

現在日本語の日常語になっている“speed”は、古英語“sped”から来ており、その意味は、success, prosperityであった。その用法は“wish a person

a good speed” (人の成功を祈る) や “send me good speed” (幸運を与えたまえ) のような表現に残っています。この意味の文例を *O. E. D.* から引用します。

I am assured of my speede. (1611年)

私は自分が間違いなく成功すると思っている。この語はまたサンスクリット語の “sphita स्फोित” (thriving, rich, prosperous) とかわりを持ちます。“accuracy” はラテン語 “accuratio” (正確, 慎重) から来ており, その動詞 “accurare” (ad; to + curare; take care) で「注意を払う」の意味を持つ。成功, 幸運を祈りながら十分な注意を払い, 物を持ち上げることのできるロボットは, もはや漫画の世界ではなくなりつつあると言えましょうか。

【具体例 2】

You can teach a robot to clean a room, but it cannot “decide” whether or not the room need cleaning. Scientists are trying to improve robots’ ability to make such decisions. (*POLESTAR English Course I*)

“decide” はラテン語 “decidere” (de-; off + caedere; to cut) に由来し, その文字どおりの意味は「切り離す」である。色々なものを切り落としていって最後に残るものが「決定」ということになることをこの語は教えてくれます。*O. E. D.* の名詞の文例を引きます。

Human generation ... is performed by derivation or decision of part of the substance of the Parent. (1659年)

人の世は先祖の残してくれたものから新しいものを引き出したり, その一部を切り捨てたりすることで遂行されていくのです。

このことは “determine” と比較してみるとよくわかると思います。この語はラテン語 “determinare” (de-; down, fully + terminare; to bound) に由来し, 「区切りをつける」という意味を持ちます。*O. E. D.* のその意味 “to set bounds to, to bound, limit.” (Obs.) での文例を引用します。

Circle is a plaine figure, determined with one line, which is called a circumference. (1571年)

円は1本の線, それは円周と呼ばれているのだ

が, によって区切られる (決定される) 明確な形である。

It determines his power. (1654年)

それが彼の力の限度だ。(それが彼の力を制限する)

どちらの文例も「区切りをつける, 制限する」という発想での「決定する」で理解可能に思えますが, 「切り落とす」という発想ではこれらの文の理解は難しいように思えます。本文に戻りますが, ロボットには掃除をするかしないかを, 切り捨てる能力はないということでしょうか。

【具体例 3】

Small talk continues until the two speakers find that they have something in common.... Once they discover this, the conversation will flow easily.

(*POLESTAR English Course II*)

“conversation” はラテン語 “conversatio” (交際, 社交) から来ており, その動詞 “conversari” (con-; together + versari; to abide, live) は「共に住む, 付き合う」という意味を持ちます。*O. E. D.* には “The action of consorting or having dealings with others; living together” (Obs.) の用法が記載されており, その文を引用します。

he lefte þe conuersacion of alle worldly men ... and went into disserte vpon the hilles. (1340年)

彼は俗人たちと付き合うのを止めて, 山中の無人の地に入って行った。

この語を「会話」から「その場を共に生きるための話し合い」と考えてみると状況がより具体的になりはしないでしょうか。

【具体例 4】

Your high school life is starting and you are going to study English for three more years.

(*Revised POLESTAR English Course I*)

“study” を表す中英語 “studien” は “apply oneself to something” (何かに精をだす) を意味しましたが, 後に学習に精をだすとなり今日の意味となった。さらにこの語はラテン語 “tundere” (to beat against,

strike), サンスクリット語 “tudati तुदति” (he pounds) とかかわりがあり, 「どンドン打つ」という内容を持ちます。私には, 新しい生活とともに扉をたたいてさらに3年間英語という世界に入ろうとするイメージが浮かんできます。この語は, 扉をたたいて中に入る, 新しい場所に踏み込むということで, 「精神的に迷う」という意味が *O. E. D.* に記載されています。その文例を引用します。

I was at first in a study what to do ...
(1689年)

どうしたものかと最初は迷ったが...

新しい世界で迷うというイメージもつけ加えたいと思います。

以上私が使用した教科書のなかのほんの一部の読みかたを紹介したにすぎませんが, 語そのものが持っている発想に語らせてみることは英語国民の思考方法をまた違った観点から理解できるような気がしています。意識の深層に触れることができないかという問題意識を持っています。さらには現在の語の使われかたを類推できはしないかとも思っています。またいわゆる単なる訳読ということから脱却できる方法でもあると思っています。culture(文化)という概念はその動詞 “colere” が「土地を耕す」を意味しますが, 場所を変えて我々の精神を耕すことと関係があります。語が担ってきた発想は我々の思考形成を知る手がかりになりはしないかと思っています。

注1

The Orphics were ascetic sect: wine, to them, was only a symbol, as, later, in the Christian sacrament. The intoxication that they sought was that of “enthusiasm,” of union with the god. They believed themselves, in this way, to acquire mystic knowledge not obtainable by ordinary means. Russell (Unwin University Books. Sixth Impression. 1971), p.39.

オルフィック教徒は禁欲の宗派であり, その教徒たちにとってぶどう酒は, 後代のキリスト教聖餐式の場合のように, 1つの象徴にすぎなかった。彼らの求めた陶酔は「熱狂」のそれであり, 神との合一の陶酔であった。合一ということによって彼らは, 普通の方法では得られない神秘的な知識を獲得すると, みずから信じていた。

市井三郎訳(みすず書房, 1969)

注2

寺澤芳雄・出淵博訳『ことばのロマンス』(岩波文庫, 1987), p.217.

Every expression that we employ, apart from those that are connected with the most rudimentary objects and actions, is a metaphor,...

E. Weekley, *The Romance of Words* (1912)

メタファーという言葉は, ギリシア語 μεταφοραに由来し, その動詞 μεταφέρειν(μετα; change + φέρειν; to carry) は「移し変える」の意味を持ちます。したがって簡単に言うとメタファーとは, 語が(具体的な場面から抽象的な場面へ)場所を変えて使われる用法ということになります。英語語彙のメタファーについては, 以下の紀要で取り上げましたが, 語源をさかのぼると語が具体的場面とかかわりを持ち, このウイークリーの言うことが事実としてうなずけます。

英語語彙の隠喩(メタファー)について—序章, 英語の海の用語の起源—(愛媛県立大洲高校研究紀要 平成元年3月)

英語語彙のメタファーについて—第1章 ギリシア語起源の語彙—(愛媛県立今治西高校研究紀要 平成4年9月)

注3

The Greek New Testament (UNITED BIBLE SOCIETIES 3rd Edition), p.97.

『新訳聖書』(国際ギデオン協会), p.79.

参考文献

The Oxford English Dictionary.

R. K. Barnhart. *THE BARNHART DICTIONARY OF ETYMOLOGY.*

Eric Partridge. *ORIGINS A SHORT ETYMOLOGICAL DICTIONARY OF MODERN ENGLISH.*

E. Klein. *Klein's Comprehensive Etymological Dictionary of the English Language.*

J. T. Shipley. *DICTIONARY OF Word Origins.*

W. W. Skeat. *ETYMOLOGICAL DICTIONARY OF THE ENGLISH LANGUAGE.*

— *CONCISE ETYMOLOGICAL DICTIONARY OF THE ENGLISH LANGUAGE.*

- H. Sweet. *The Student's Dictionary of Anglo-Saxon.*
- B. Mitchel and F. C. Robinson. *A GUIDE TO OLD ENGLISH.*
- F. H. Stratmann. *A Middle English Dictionary.*
- K. Mosse. *HANDBOOK OF MIDDLE ENGLISH.*
- 森田・三川・小島『古英語文法』大学書林.
宮部菊男編『中英語テキスト』研究社.
- Liddell and Scott. *AN INTERMEDIATE GREEK- ENGLISH DICTIONARY.*
—— *GREEK-ENGLISH LEXICON.*
- 田中秀央編『羅和辞典』研究社.
- D. P. Simpson. *Cassell's Latin-English English-Latin Dictionary.*
- C. T. Lewis. *AN ELEMENTARY LATIN DICTIONARY.*
- C. R. Lanman. *A SANSKRIT READER.* 1934.
- M. Monier-Williams. *A SANSKRIT-ENGLISH DICTIONARY.*
- A. A. Macdonell. *A PRACTICAL SANSKRIT DICTIONARY.*
- 平岡昇修『サンスクリット・トレーニングⅠⅡⅢ』
(世界聖典刊行協会, 1995)
- (愛媛県立伊予高等学校教諭)